様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２９ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０７６４

研究課題名（和文）近世品川宿村の分節的な社会＝空間構造に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Basic study for segmented socio-spatial structure found in early modern Shinagawa-shukumura

研究代表者
吉田　伸之（Yoshida, Nobuyuki）

東京大学・人文社会系研究科・名誉教授

研究者番号：４００９２３７４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は江戸南端に隣接し、一部江戸町方に包摂される「品川宿村」を対象とし、江戸近郊における地帯構造の解明をめざした。主たる成果は下記のようである。
①品川宿村の社会=空間について、とくに北品川の構造を解明した。そこでは宿駅としての北品川宿1～3丁目、歩行新宿1～3丁目のほか、数個の寺社門前町群を見いだした。②当該地帯のヘゲモニー主体として、a地方百姓の共同組織としての村、b食売旅籠屋の共同組織からなる有機的結合の存在を解明した。③歩行新宿における疑似遊廓的な様相とその特質を検討した。④南北品川宿や隣接部における都市下層社会の分厚い存在に注目し、悪党・無宿・ぶらんさんなどの特徴について解明した。

研究成果の概要（英文）：This research aims to reveal zonal structure in the suburbs of Edo. The study area is “Shinagawa-shukumura.” A part of the region was neighboring the southern edge of Edo and included in its autonomous government. The summary of main results is as follows:(1) We found out the socio-spatial structure of Shinagawa-shukumura. It is revealed that there were some post-towns such as Kita-Shinagawa-shuku, Kachi-Shinjuku, and a few groups of towns related to temples. (2) We found out two groups which hold hegemony in the region: (a) Cooperative organization for peasant-cum-householder in shukumura.(b) Close and intimate union which consists of organizations for Meshimori hatago,inn.(3) We examined the aspects and characteristics as quasi-Yukaku, licensed quarter in Kachi-Shinjuku.(4) With a focus on the lower strata which covered thickly the urban society in and around north and south Shinagawa-shuku, we showed the characteristics of akuto, rogue; mushuku, homeless wanderer.

研究分野：日本近世史

キーワード：江戸近郊の地帯構造　食売旅籠屋　悪党　疑似遊廓　寺社門前町群　宿村　地方百姓　都市下層社会

１．研究開始当初の背景

旧荏原郡品川領は、巨大な規模に達した伝統都市江戸の南端に接する一画にあたり、品川宿を中心とする固有の地帯をなした。こうした巨大都市近郊地帯は、特に近代化以降の動向と絡めて重要な論点を内包する。ここで扱う品川領や南北品川宿村に関する研究としては、『品川町史』上・中巻（1932 年）や、これを前提として編纂された『品川区史』資料編（1971 年）・通史編上巻（1973 年）、また近年では品川歴史館の特別展図録などが最良の達成となっている。なかでも『品川町史』上・中巻は、当時得られる限りの歴史資料を博捜したうえで編纂されたもので、当時の品川宿村域に関する諸事実を、豊富な史料引用（その多くは現在原本の所在が確認できない）とともに相当程度明らかにしており豊かな内容を持つ。

しかし、これらの少なくとも近世部分については、(1)品川宿村の交通と宿駅機能や食売女問題を中心に取り上げる、(2)品川宿村の耕地部分への注意を欠く、(3)江戸との関係に十分な注意が向いていない、(4)品川宿村と深く関わる品川領の村々や、特に六郷領の東海道沿い隣接地帯―なる大森・八幡塚など―を併せて検討するような視野が欠けるなど、数多くの検討すべき課題を残したままで、江戸などの巨大規模に達した伝統都市における周縁域が固有に持つ地帯特性という観点からの検討や比較類型的把握の試みはない。また、本研究テーマの内容に直接関わる海外での研究はない。

２．研究の目的

本研究は、近世から近代初頭における武蔵国荏原郡品川領（現・東京都品川区）の中核をしめる品川宿村を主な素材とし、江戸近郊の地帯社会の錯雑とした社会=空間構造（地帯構造）の全体像を明らかにしようと試みるものである。

品川領には「都市と農村」が混在し、支配関係は錯綜、また町・村の耕地部分が入り組むなど、極めて複雑で独特な社会=空間構造を形成した。本研究では、こうした品川領という地帯構造の特性解明を目標に掲げて、その第一段階として、品川領の中心的な位置にある南北の品川宿村を取り上げ、その構造的な特質の解明をめざした。また、こうした成果を、「伝統都市周縁域の比較類型把握」という視点から、海外を含む研究者との交流を実施し、論点の一般化を試みようとした。

３．研究の方法

こうした研究目的を前提に、以下のような方法をとった。

(1)社会=空間構造論。これは、空間構造の復元的な考察を基礎として社会構造分析を精緻にすすめようとするものである。

(2)分節構造論。塚田孝氏による「重層と複合」論を踏まえ、社会を多元的に構成する共同体・共同組織・身分存在などの諸要素を、他方における権力・社会的権力の統合力と併せて、全体社会を構造的にとらえる方法である。

(3)地帯構造論。本研究で初めて提起するもので、村や町など単位地域レベルに留まらず、これらが一定の意味のある広域的結合をなすものとして問題とする、社会構造把握の方法である。

４．研究成果

本研究で主たる調査研究の作業対象としたのは、品川領の中枢をしめる南北品川町（宿村）とこれに隣接する後背地域である。南北品川町域は極めて多様で分節的な社会＝空間構造を有しており、それに伴い、当該域を構成する個々の要素（品川三宿・寺社・大名抱屋敷など）について一つ一つ丁寧に取り上げねばならない。

本研究では、まずその前提として品川領に関する基本的な史料群の所在状況とその内容の把握に努めた。その概要は以下のようである。

南品川関係：①利田家文書。南品川宿名主文書である。②妙国寺門前文書。東海道沿いの妙国寺門前と裏門前に関する史料群である。

北品川関係。①宇田川家文書。北品川名主文書である。②北品川稲荷門前文書。品川神社境内に隣接する門前町関係史料である。③東海寺文書。品川領最大の寺院である東海寺に残されたもので、門前関係史料を含む。

また『品川町史』上・中・下 3 巻に収録される近世・近代史料は、その後原本の所在が確認できず不明となったものがあり、刊本史料ではあるが極めて貴重なものを多く含む。しかしその全容を検索することは困難であった。そこで今回、同町史収録の全史料について、史料の年代、作成者、宛所、また収録にあたって素材とされた史料群名、また主たる内容などに関する情報をデータ化した。

以上を踏まえ、本研究では以下のような成果を得た。

(1)品川宿村の社会=空間構造に関する基本的な研究。ここでは、品川宿村の全容を把握する中で、とくに北品川宿村を中心に、その構造を詳細に解明した。北品川宿村においては、まず中核となる宿駅としての北品川宿 1～3 丁目、さらに 18 世紀前半に新たに取り立てられた歩行新宿（かちしんじゅく）1～3 丁目、さらには、東海寺門前、清徳寺門前、稲荷門前という三つの複合する門前群を見いだした。

(2)１８ヶ所寺社門前の解明。南北品川宿村には、多数の寺社が分布した。それらの大半は中世以来の長い歴史をもち、固有の門前町を随伴した。そして品川宿村においてこれらの寺社門前は、代官支配下の宿駅とは異なり、近世中期において江戸町奉行支配へと編入され 18 ヶ所寺社門前と総称された。すなわ

ちこの 18 ヶ所寺社門前は、江戸町方の一部を構成した。こうして南北品川宿村の町場は、その中心部分が代官支配、周辺部の寺社門前が町奉行支配という錯雑とした支配関係の下に置かれたのである。
（3）社会的権力の位相の検討。こうした品川宿村の社会構造を見る上で重要なのは社会的権力の位相如何である。本研究では、これを第一に、南北宿駅部分の百姓中、すなわち「地方（じかた）百姓」の共同組織、第二に、後述の疑似遊廓のヘゲモニー主体である食売旅籠屋の共同組織、の両者による複合的な存在に、その位相を見いだした。
(4)疑似遊廓社会の構造と特質解明。そこで重要なのが、品川が新吉原に次ぐ江戸近郊の遊所であったという事実である。本研究ではこれを疑似遊廓社会と規定した。これは、唯一の後任された遊廓である新吉原に準じ、江戸四宿（品川・千住・板橋・内藤新宿）において、食売女による「遊女屋」経営が認められたことを指すものである。本研究ではこの内、特に北品川歩行新宿を取り上げて、疑似遊廓社会の構造と特質について検討を試みた。
　そこではまず前提として、享保期におけるその特異な成立過程を明らかにし、歩行新宿が屋敷地のみからなり、南北品川宿が広大な耕地を有する点との差異をみた。すなわち歩行新宿の家持＝百姓は、食売旅籠屋（多くが地借）から多額の地代を得なければ、宿駅としての存立基盤を危うくするという条件を抱えていたのである。こうして、歩行新宿には、南北品川宿以上に多数の食売旅籠屋やそれに随伴する茶屋が集中した。こうして、宿駅維持の基盤に疑似遊廓社会が取り込まれるという特徴的な有り様を明らかにした。
(5)品川宿村における都市下層社会の構造と動態の検討。一方、南北品川宿村には、独自の都市下層社会が分厚く展開した。これは、東海道初宿として街道関係の諸労働（人足、駕籠舁など）が定在すること、疑似遊廓社会に伴う諸労働や雑業が展開すること（駕籠舁や日用労働）などによるものである。本研究では、第一に駕籠舁の存在形態についてその存立構造を検討した。そこでは、江戸町方（18ヶ所寺社門前を含む）の駕籠舁との相剋、また六郷渡しに至る各所に存在する駕籠舁(片棒担ぎ)の集約点（立場）の定在などに注目した。また、品川宿村では、南品川猟師町のような漁業集落があり、そこでは大森海苔の生産に伴う日用労働が展開するなど多様な雇用機会があった。これらを条件として当該地帯には分厚い都市下層社会が展開したのである。また天保期以降、これらの地帯には悪党や無宿（「ぶらんさん」などと呼ばれる）が多く徘徊した。こうした下層社会の有りようが一つの基盤となり、幕末期の激しい打ちこわし（慶応 2 年の江戸打ちこわし）の発火点ともなったことを論じた。

　本研究では、品川宿村という巨大伝統都市周縁域で抽出した固有の地帯特性を、他の事例と比較類型的に把握することを試みた。一つは、大坂・京都との比較である。大坂については、四天王寺周辺部や難波村地帯、また京都では「大仏廻り」（妙法院領の都市社会）との比較が極めて興味深い論点を呈示しつつある。また、海外との比較では、この 10 年来、国際的な研究交流を積み重ねてきたフランスのアンシャンレジーム期研究者とのコロークで論点の深化を図った。一つはパリ第四大学（ソルボンヌ）において、同大学やフランス社会科学高等研究院（EHESS）所属の研究者と開催したコロークにおいて身分的周縁論を軸に当該テーマでの論点を検討し、二つには、リール第二大学で開催されたコロークで法と社会という視点から、本研究に関わる個別研究事例を通して論点の展開を実現し得たことが成果として上げられる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

吉田伸之「江戸の飴屋・飴売り」『和菓子』査読無、23 号、2016、pp.7-21
吉田伸之「下総と江戸を結ぶー利根川・江戸川水系の舟運と薪」『鎌ヶ谷市史研究』査読無、28 号、2015、pp.1-25
吉田伸之「遊廓社会論の射程」『歴史学研究』査読有、2014、26-38
吉田伸之「髪結の職分と身分」『思想』査読無、1084 号、2014、pp.29-45
吉田伸之「幕末期、江戸の周縁と民衆世界」『歴史評論』査読有、758 号、2013、pp.44-60
吉田伸之「地域史の枠組みを再考する」『佐賀大学地域学歴史文化研究センター年報』査読無、2013、103-110

〔学会発表〕（計４件）

吉田伸之「「御城米」と江戸の湊」都市史学会、2105、法政大学（東京都新宿区）
吉田伸之「Society and a series of disputes over the commodity known as Motoyui(paper hair ties),リール第二大学司法史研究センターCHJ 主催コローク、2015、リール第二大学（フランス）
吉田伸之「伝統都市・江戸の分節的把握―方法と実践」国際シンポジウム「都市社会史の方法と実践」、2014、上海大学（中国）
吉田伸之「アナール論文その後―比較類型把握の深化にむけて」日仏二国間交流セミナー、2013、パリ第四大学（ソルボンヌ・フランス）

〔図書〕（計４件）

吉田伸之『地域史の方法と実践』校倉書房、2015、450 頁
吉田伸之『都市―江戸に生きる』岩波書店、2015、252 頁

逸身喜一郎・吉田伸之編著『両替商　銭屋佐兵衛』東京大学出版会、2014、768 頁
佐賀朝・吉田伸之編著『シリーズ遊廓社会』上巻、吉川弘文館、2013、350 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
吉田伸之（YOSHIDA、Nobuyuki）
東京大学・大学院人文社会系研究科・名誉教授
研究者番号：４００９２３７４

(2)研究分担者
なし　　（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
なし（　　）

研究者番号：